

## 「かながわ人づくりコラボ2011」実施結果概要

平成23年11月5日（土）神奈川県立国際言語文化アカデミア研修ホールにおいて、「かながわ人づくりコラボ2011」を開催しました。

中学生から大人の方まで、246名の方々にご参加いただき、ワークショップ及び教育論議において、活発な話し合いが行なわれました。その概要をご紹介します。

### 概 要

#### 1 趣旨

かながわ教育ビジョンに基づき、「かながわ人づくりコラボ2011」を開催し、参加者同士の交流を図りながら、県民との教育論議等を通じて、様々な主体との協働・連携による人づくりの一層の推進を図る。

#### 2 テーマ 「私たちが進むべき未来 ～3.11からの新たな出発～」

##### ★ワークショップテーマ

学生グループ 「震災の経験から考える～私たちの未来設計(これから)～」

一般グループ 「震災の経験から考える～地域と人づくり～」

##### ★教育論議テーマ

「私たちが進むべき未来 ～3.11からの新たな出発～」

#### 3 日時

平成23年11月5日（土）13時30分から16時30分

#### 4 会場

神奈川県立国際言語文化アカデミア研修ホール及び研修室（本郷台駅から徒歩5分）

#### 5 主催

神奈川県教育委員会 かながわ人づくり推進ネットワーク

#### 6 参加者数

246名

#### 7 実施内容（司会進行 中山 拓登[県立柏陽高等学校生]）

##### (1) あいさつ（かながわ人づくり推進ネットワーク幹事長 高木 展郎）

「かながわ人づくりコラボ2011」にお越しいただき、ありがとうございます。

この「かながわ人づくりコラボ」は、平成19年に策定した、本県の教育推進の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」に基づき開催するものです。

教育ビジョンの作成の際は、県民との話し合いを大切にしてきましたので、教育ビジョンを推進する際も、同様に、このように県民の皆さんと論議する場を設け、今後の人づくりについて、しっかり議論することが大変重要と考えております。

また、今回のテーマ「私たちが進むべき未来～3.11からの新たな出発」については、震災の経験を通じて、一人の人として何を大事にしたらよいのか、どんな人に成長すればよいのか、人と人とのつながりをどのように図っていけばよいのかなど、参加者それぞれの思いを大切にしながら、皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。



かながわ人づくり推進ネットワーク  
高木 展郎幹事長

## (2) ワークショップ

中学生、高校生、大学生・専修学校・各種学校生の各校種別学生グループ（4グループ）と、学生から大人まで多世代の一般グループ（2グループ）に分かれ、それぞれのテーマに沿って少人数で話し合いました。

また、ワークショップに参加しない方は、自由に各グループの話し合いを見学していただきました。

各グループでの話し合いの概要は次のとおりです。

### ア 中学生グループ

#### 【震災が起きて感じたこと・考えたこと】

- 震災が起きたことで、学校に迎えに来てくれる家族がいる幸せ、励ましてくれる仲間がいる幸せなど、身近な人の存在の大切さを改めて感じた。
- 被災地では、混乱に乗じて犯罪も起きていた。外国からは日本は真面目で、治安の良い国だと思われているが、そうした行動を起こすのは卑怯だと思う。
- 混乱の状況下で、メディアで様々な情報が飛び交った。交通情報や農作物に関する風評なども。情報に惑わされないよう、自分の力で正しい情報を判断していかなくてはならない。
- 被災地の人たちの気持ちを本当に考えているのか。気持ちを考えて、自分たちができることを行動に移していかなくてはならない。また、一人ひとりのモラルや公共マナーについても見つめ直していく必要がある。



#### 【自分はこう変わりたい（震災の経験を通じた今後の自分づくり）】

- 周りの意見、ニュースなどの情報をしっかり得ていきたい。
- 相手のことを考えられるようになりたい。
- 身近な人にも真心をこめて接していきたい。
- 積極的にボランティアに参加していきたいし、他の人も誘っていきたい。（ボランティアの意義はお金や物ではなく、人の為に必要なことを考え、自分で行動することにある。得るものが必ずある。）
- しっかり考えた行動とはっきりとした意見を述べる。
- 水や食べ物など、物を大切にしたい。
- 自分を見つめ直し、どのように社会に貢献していくことができるか考えたい。
- 募金活動など、自分に関係ないと思うのではなく、また、こうあるべきだという自分の考えを持って、それを曲げていかないことが、目標とする全てのことに繋がっていくのではないかな。

### イ 高校生Aグループ

#### 【震災が起きて感じたこと・考えたこと】

- 多様な情報ツールを使って、発信された情報の中には誤報もたくさんあった。そうした中で、大量の情報から、自分たちで、いかに冷静に判断することができるかが大切だと思う。
- 震災直後には、募金活動、物資の支援などが頻繁に行なわれていたが、時が経つにつれ、そうした行動が風化してきているが、これからも支援し続ける必要がある。



- われわれ神奈川に住む人たちと、被災地に住む人とでは得られる情報に違い（ギャップ）がある。
- 震災の影響で、神奈川県でも水・電気・ガスが止まった。震災以前は、水を出しっぱなし、電気をつけっぱなしにすることがあったが、震災の経験を通して節電、節水などの動きを強化していきたい。
- 震災後、アメリカや福島に行った生徒から聞いた話では、アメリカでは日本の情報が誇張して伝えられているとのことであった。また、福島に行った生徒からは、実際に電気は何処で作られているかを初めて知ることによって価値観が変わったということであった。
- 震災に対して、どう対応するかがキーポイントだと思う。



#### ウ 高校生Bグループ

##### 【震災が起きて感じたこと・考えたこと】

- 震災が起きて、家に大人が誰もいなかった時、近所の人が助けてくれた。これからも近所の人とのつながりを大切にしていきたい。
- 募金活動だけでなく、被災地の人たちに対して本当に必要な支援は何なのか、自分たちに出来ることは何かないか。生活に必要な最低限のものだけでなく、被災地の中学生・高校生にとって、あったら嬉しい物を送れるとよい。

##### 【震災の経験を通じて、自分の将来に向けて考えていること】

- 看護師になりたい。臨機応変な力を身につけたい。
- 現場で必要なものを考えられること。すぐ先だけでなく、未来を見通す力がほしい。
- 他者の為になる仕事を考えるようになった。
- 管理栄養士になりたい。チームを作って被災地にいけるような仕組みを作れたらよい。
- 鉄道会社に勤めたい。情報をたくさん持っておけば、お客さんの対応にも役立つ。

##### 【震災をきっかけに自分が成長したなど思うこと】

- パニックになった子を励ます立場でいられた。
- 次に備えてという考え方ができるようになった。
- 人を助ける、役立つ、奉仕するということを考えられるようになった。
- 受身の立場から自分からアクションを起こせるようになった。



#### エ 大学生・専修学校生・各種学校生グループ

##### 【震災が起きて感じたこと・考えたこと】

震災を通して、情報が錯そうし正しく行き交っていない状況があったことから、情報の伝わり方、情報をどう読み取るかという点について議論した。

- 子どもは、mixiなどのSNSを使えないので、メディアでは子どもに分かりやすい報道をする必要があると思う。
- 出身地域ではないところに住んでいると、若者でも孤立してしまう。隣近所に住んでいる人の顔も知らないという状況において、関わる気持ちがないわけではないが、なかなかコミュニケーションを取るきっかけがない。
- 地方出身の学生であっても、住んでいる地域に根付き、できるだけコミュニケーションを図っていくことが大事だと思う。手紙やメールではなくface to faceのコミュニケーション

ョンが大切。

- 譲り合う気持ちや人の気持ちの変化を感じた。
- 小学校でボランティアを行っていたが、子どもは地震を楽しんでいた。地震の怖さを知らないことは危険。子どもたちに対して地震の知識を正しく伝えることが重要。
- 実体験を踏まえた避難訓練が必要である。
- 自分の命より職業を大切にするか、職業より命を大切にするか、その場になってみないと分からない。



#### オ 一般Aグループ

##### 【震災が起きて感じたこと・考えたこと】

- 近所の人や親戚に助けてもらった。人と人とのつながりが大切で、個で生きて行くことは難しいと感じた。
- 絆やつながりをつくり、広げていくのはあいさつや助け合いである。あいさつができる社会を作り出していこう。
- みんなで一緒にいることが安心を感じさせてくれた。普段、バラバラなようだけど協力や助け合いの大切さを感じた。
- 周りに住んでいる人たちのことを、自分はあまり知らないことに気づいた。助け合うには、知らない人を少なくすることも大切。部活を通じて地域と交流を図っていきたい。
- 地域に根ざした生き方で、地域の戦力となっていきたい。
- 帰宅の途中で大人がパニックになっていたの、余計不安になった。大人がしっかりしてほしい。
- 電気が止まって炊飯器が使えなかったが、鍋でご飯が炊けることをおばあちゃんが教えてくれた。こうした昔の知恵を自分の学びとしていきたい。



#### カ 一般Bグループ

##### 【震災が起きて感じたこと・考えたこと】

- なんとかして家に無理して帰らなきゃいけないのは、家族や家が心配だから。横のつながり（近所づきあい）があれば慌てて帰らなくても大丈夫だったかもしれない。
- その場、その場で助け合う力があればよかった。
- 若い世代の気持ち、あいさつなどを受け止めてもらいたい。大人に若者の気持ち、意見の引き出し役になってもらいたい。あいさつを交わすまでできなくても、ふれあう瞬間の笑顔、ありがとうという言葉で毎日積み重ねていくことができればいい。
- 若い世代と大人が日頃から引き出しあいながら、双方から歩み寄る日頃の力を作っていくことが大事。
- 形のない「毎日」というマニュアルができないか。毎日を大事に、一生懸命生きていくこと、それが私たちが震災から学んだ一つである。一生懸命、大事に生きていくことに、コミュニケーションのつくり方、学ぶもの、世代を超える大きなヒントがあるのではないかな。



### (3) 教育論議

「私たちが進むべき未来 ～3.11からの新たな出発～」

コーディネーター：かながわ人づくり推進ネットワーク 副幹事長 田代 正樹

パネリスト（登壇者）：各ワークショップのファシリテーター（進行役）

中学生グループ	宮本 颯
高校生Aグループ	加藤 優羽
高校生Bグループ	伊藤 大征
大学生・専修学校生 ・各種学校生グループ	遠藤 洵
一般Aグループ	濱田 政弘
一般Bグループ	笹谷 幸司
神奈川県教育委員会委員	宮崎 緑
〃	倉橋 泰

始めに、各グループのファシリテーターから、ワークショップで話し合われた内容の発表（（2）参照）があり、「情報」「つながり・絆」「自分探し」「外国からの視点・支援」という共通したキーワードが見えたことから、これらを柱として議論が進められました。

【各ワークショップの発表を聞いて】

- 情報リテラシーの問題を教育の現場でどう取り込むことができるのか、小学生から大学生まで一貫したプログラムができればよいのではと感じた。また、対人関係については、ルールやマナー、地域社会での個のあり方、社会学、心理学を総動員した行動規範のようなものに進化させていくことができるとうい。
- 震災が起きて帰宅できなかつたため、コンタクトをはずせなかつた生徒のために、先生が裸足でコンタクトの液を買いに行ってくれた。自分よりもまず子どもという気持ちが嬉しかったということだったが、そういう大人が増えてほしい。
- 神奈川県ではふれあい教育をずっと掲げてきたが、ふれあうことは大事。日常でさりげなく見えるあり方、大人の背中を見て子どもは育つことを認識して、大人が自ら行動で示すことが若い世代の意見の引き出し役になることであると考えている。

【つながり（コミュニティ）について】

- 大人とのふれあいという視点で、避難訓練は重要だと思う。静岡では、地域ぐるみで避難訓練をずっと実施している。地域ぐるみで行なうことで、子どもから大人まで参加するコミュニティの場ができてくると思う。
- コミュニティにも色々あり、ネットや趣味の世界でつながるコミュニティもある。固定観念にとらわれず、情報などを活用した新たな形で作るコミュニティもあると思う。新たなコミュニティを使う、育てるということが大切。
- 団塊の世代が地域に戻ってきているが、仕事に一生懸命過ぎて地域に根がないため漂流してしまっており、コミュニティを形成する上で問題になってくると思っている。趣味の世界ではつながるが、地域のためのつながり方が分からないので、ここを今後どうして行くのが神奈川の課題ではないかと思う。
- 「心ふれあう しなやかな 人づくり」の「しなやか」とは、昨日まで見ず知らずだった人



でも、旧知のように自然に、あくまで対等で気持ちでつながっていくということなのではないかと思った。われわれは新しいコミュニティの岐路に立っていると感じている。

- 地方では、集まる機会が多いので隣近所と仲が良いが、神奈川に来た際、隣との関係はほとんどないようなものと言われショックを受けた。やはり、顔を合わせてのコミュニティが大事だが、集まってなんかやろうというのは難しい。グループでは、新しい方法で若い世代がコミュニティをつくって行こうという話になった。



- 受身の人が多い。話しかけられなければ話さない人が多い。新しいコミュニティをつくるために積極的になっていけるとよい。
- 学校での地域貢献、ごみ収集だけじゃなくて、別の方法でも交流できるとよい。また、文化祭、体育祭学生同士の団結、絆が見えてきた。学生の舞台である学校行事を通してコミュニティを活性化できるのではないかと思った。
- 地域との関わりが少なくなっているのは、安心感がないからである。顔を合わせても、表面では仲良く話しても内心では何を考えているか分からない時代。それを変えていくこと、世代の違う地域の人たちとの関わりを大切にしていったら安心感ができる。いい意味で、都会を田舎にしていくことができればよい。
- ふれあうためには、自分から行かなくてはいけない。言葉から入るコミュニケーションも大切であり、また、イベントには積極的に出て行くことも大事。自ら出て行き、あいさつをするだけでよい。  
たった一つの言葉からコミュニケーションが広がっていく。あいさつ運動を広げていけたらよい。
- あいさつは大事だが、見ず知らずの人に対して、どこまであいさつしてよいのか分からないということもある。基本はあいさつするが、例えば、あいさつを返してもらえなかったという想定外の事態にどう対応できるか、「しなやか」に対応できる人材をつくっていく、地域も家庭も、企業も総ぐるみで「人づくり」を実行していくことによって新たなコミュニティも生まれていくのではないか。
- 地域も「しなやか」に受け入れる姿勢を持つと、みんな地域に出て行きやすくなる。

#### 【会場からの意見】

- 世代と行動範囲で問題点の感じ方は違うと感じた。子どもたちの言葉の端々に大人への期待を感じた。大人が気付いていないところに、子どもたちが気づいているということを感じたので、災害時だけではなく、日々、子どもと会話して、大切に思っているということをお互いに共有しないとけないと感じた。
- 関心を持ち合い、話し合うことが必要だと思った。ある大学生が、家族で話し合うことが必要だと言っており、皆さんは、この中で話し合うことのスキルを学んでいると思うが、持ち帰って家族や友達、近所の人と実践していくことが必要だと思う。はじめからやるのは難しい。あいさつ、それも難しければ関心を持ち合うこと大事だと思った。
- この話し合いが、「コミュニティをつくる」というところだけで終わってしまうのではないかと思って疑問を感じた。倉橋さんが、自分からできることを言ってくれたことに共感できた。
- 皆さんがイベントに参加したり、訓練する中で、話し合ったりふれあったりする「ふれあう瞬間」をいかにセッティングできるかが大事。



## 【コーディネーターによるまとめ】

- コミュニティは、人と人との集まり、つながりがあるところ。そこで情報を共有して、助け合い、励ましあうことが大事。  
また、関心を持ち合う、話し合う、相手を理解するということが基本があいさつだと思う。
- あいさつに始まり、あいさつに終わる。言葉を交わすことが全ての基本である。  
あいさつを交わすことによって、自分も元気になり、相手も元気になる。また、相手の様子も分かり、会話が弾む。
- あいさつは非常に簡単なことであるが、しかし、簡単などころの一步を踏み出せない人たちがいる。神奈川県が進める「しなやかな人づくり」の中で、その一步を踏み込んでいけるような、かながわらしいコミュニティづくりができればよい。

## (4) まとめ (神奈川県教育委員会委員長 平出 彦仁)

本日は、246名に御参加いただき、大変有意義な議論を行うことができました。

テーマについては、「私たちが進むべき未来～3.11からの新たな出発～」という、やや重いテーマでしたが、教育ビジョンの原点に立ち返った、深い議論が行われたように思います。

当初、このテーマでは、原発問題等の話題になってしまうのではと危惧していましたが、特にワークショップでは、若い方々が、人間味あふれた、将来に明るい展望を描くことができる内容を話し合っていたことが嬉しかったです。

また、教育論議では、地域との関わりについて話し合っていました。

学校や大学では、生徒や学生の身の安全が第一に考えられますが、地域、特に高齢者にとっては、中学生や高校生、大学生は頼りがいのある存在です。自力で逃げる力があり、人も助けることができる、地域の方々とは、そういうつながりを持っていただきたいと思います。

思いやる力、たくましく生きる力、社会とかかわる力の三位一体の人間力を、神奈川の教育ビジョンは掲げておりますが、折に触れ、誰でもが人間力を身につけるべく、周囲がコラボしていく必要があります。

教育ビジョンの策定に際しましては、数多く県民との論議を行なりましたが、これからのように“実”の部分を展開していくかが課題になるだろうと感じております。

感心を持ち合って話し合うこと、さまざまな考え・アイデアを持ち合う、都会を田舎にしようというような発想が、今後、かながわの人づくりに大切になってくると思います。

これからも、教育ビジョンに基づく「人づくり」を、県民の皆様と協働・連携を図りながら、進めてまいりたいと考えております。今後とも、御理解とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。



神奈川県教育委員会  
平出 彦仁委員長

## 8 参加者の声

「かながわ人づくりコラボ2011」に参加された皆さんに、コラボで話し合った内容を踏まえて、これからの「自分づくり・人づくり」について、ご自身でどんなことを実践していきたいか、アンケートで伺いました。

### 今日から実践！私の自分づくり・人づくり

#### ★人とのつながりを作る（地域のイベントなどに積極的に参加）（全39件）

（主な意見）

- ・地域とのつながりを大切に、地域の方と協力できるよう取り組んでいこうと思った。
- ・地域のイベントに参加できるときは積極的に参加していきたいと思った。同世代だけでなく、近所のいろんな世代の方とコミュニケーションが取れるようになりたいと感じた。
- ・最後まで地域で暮らせるよう、それぞれのニーズに合った居場所づくりとそこでの人とのつながりづくりをもっと積極的に行なっていきたい。
- ・家族・友達・近所の人と話し合えるようになるために、関心を持ち合うことを意識したい。

#### ★積極的にあいさつをしていく（全25件）

（主な意見）

- ・近隣の方に対して会釈だけでなく、声を出してあいさつしていきたい。
- ・基本的なあいさつ、他者への思いやり、身近な人への心配りを積極的にやっていきたい。
- ・あいさつが全ての始まりだと改めて感じたので、実践したい。

#### ★自分に出来ることをする（全5件）

（主な意見）

- ・自分にできる限りのことを探そうと思った。大切な人を守ることができるように。
- ・人のために何が出来るかを考え、生き方をもっと考えようと思った。

#### ★その他（全37件）

（主な意見）

- ・受身ではなく、自ら主体となって働きかけることが出来るようになりたい。
- ・1日の大半を過ごす職場で被災した場合の対応について考え、家族や職場の人と共有したい。
- ・自分の意見をはっきり言うというのは学校の授業でも習ってきたが、改めて大切さを知った。
- ・今求められているのは、判断力のある人、行動力のある人の育成ではないか。不測の事態に対応できる人になりたいし、人を育てたい。
- ・震災の日からの経験、反省を忘れず、また起こるかもしれないことに対して心構えしたい。
- ・情報の選択に気をつける。
- ・全てのことを当たり前と思わない。